

平成28年度 八街市地域公共交通協議会 (千葉県八街市) (再編計画策定事業)

概要

○公共交通の概況

八街市における公共交通には、八街駅と榎戸駅を結ぶJR総武本線及び3事業者による民間路線バス4路線がJR八街駅を発着している。また、市内にはタクシー事業者2社が営業所を構えているほか、市内全域において八街市内循環バス(愛称:ふれあいバス)5路線が運行されている。

民間路線バス及び市内循環バス等の公共交通の運行により、交通空白地域の解消が図られる一方で、人口ピークであった平成17年度を境に市内循環バス利用者は減少傾向にあり、市財政状況が悪化するなか、市が負担する運行経費についても検討課題となっており、収支率の健全性が求められている。

市全体として、自家用車に対する依存度が高い傾向(1.55台/世帯)にあるため、今後の更なる高齢化の進展により、自家用車を利用できない高齢者の増加が見込まれている。

また、バス停まで移動することが難しい高齢者等もいることから、民間路線バスや市内循環バス等に代わる移動手段を確保する必要がある。



面積	74.94 km ²
人口 (H28.4.1時点)	72,406人
15歳未満	7,861人
65歳以上	18,762人
高齢化率	25.9%
世帯数	30,853世帯

計画策定調査の必要性

「八街市地域公共交通網形成計画(平成28年3月策定)」において策定された計画に基づき、八街市のこれからの公共交通体系である「JR(鉄道:都市間連絡の骨格となる交通軸)、幹線バス(民間路線バス:周辺都市への連絡及び市内の骨格となる交通軸)、支線バス(市コミュニティバス:地域内の移動サービスと公共交通不便地域の解消)、グループタクシー(タクシー運賃補助:高齢者移動支援策)」といった多様な交通モードによる役割分担の実現を目指し、具体的な計画を策定するためのデータを取得するため、本調査業務は必要不可欠である。

具体的には事業1「市コミュニティバスの運行ルート・ダイヤの再編」として、JR、民間路線バスとの乗り継ぎ調整、コミュニティバスの運行車両数の縮減及び定時運行を守るための運行ルートの道路混雑状況等の調査、また、事業2「交通結節点の強化」として、バスターミナルの移設予定地であるJR八街駅南口・北口の利用状況調査、事業3「グループタクシーの導入」として、助成対象とする者を検討し、利用者推計及び支出シミュレーションを行う。

協議会開催状況

○協議会の開催状況 4回開催

・第1回(5月23日)書面開催

調査業務の事業実施者の選定について

・第2回(6月30日)

地域公共交通再編実施計画の策定について

・第3回(10月26日)

地域公共交通再編実施計画策定に係る調査及び分析結果について

・第4回(2月1日)

地域公共交通再編実施計画(素案)について

調査の内容

①市コミュニティバス運行ルート・ダイヤ再編調査業務

- ・市コミュニティバス利用者のJR及び他の路線バスへの乗り継ぎ状況やODを把握するため、バスに添乗してのアンケート調査。
- ・ダイヤ作成の基礎資料とするため、再編後の運行ルートを実験車を用いての試走。
- ・各種調査結果から、再編運行ルート及びダイヤの作成。

②JR八街駅利用状況調査業務

- ・ふれあいバスの再編に併せ、ターミナル機能をJR八街駅に移設するための基礎資料となる八街駅における交通流動調査。

③グループタクシー事業調査業務

- ・高齢者のグループタクシー利用可能性を客観的に把握するため、現況の高齢者の移動手段と利用状況及びグループタクシー事業利用の意向について、郵送によるアンケート調査。

④地域公共交通再編実施計画策定業務

- ・各種調査の結果を踏まえ、計画の作成。

⑤八街市地域公共交通協議会及び住民説明会の開催

- ・会議及び説明会への参加、支援。パブリックコメントの支援

調査事業の結果概要

①市コミュニティバス運行ルート・ダイヤ再編調査業務⇒乗り継ぎ・ODアンケート調査(調査票573枚回収、回収率76.6%)及び道路状況調査の実施により、市コミュニティバス再編の方向性を整理し、再編案を作成した。

②JR八街駅利用状況調査⇒駅の交通流動調査により、駅利用者のアクセス、イグレスの端末利用手段を把握し、駅前広場再編計画の基礎資料を作成した。

③グループタクシー事業調査業務⇒アンケート調査(調査票411枚回収、回収率30%)により、高齢者の外出行動を把握するとともにグループタクシー事業利用意向を調査した。

④地域公共交通再編実施計画の取りまとめ⇒計画(素案)の作成。

⑤協議会開催等事務⇒3回の協議会開催、別に書面開催を1回。3月に5回目の協議会を開催予定。また、パブリックコメントの実施と住民説明会を開催予定。

生活交通ネットワーク計画等の計画策定の方針

平成29年10月を目標に市内循環バスのターミナルを市の中心核であるJR八街駅に移設し、民間路線バスとターミナルを共有することにより、公共交通機関同士の乗り継ぎ強化、また、利便性の向上を図るとともに、市の中心部に市民を集め、まちの賑わい創出に繋げる。

ターミナル機能の移設に併せ、再編実施計画に沿って、市内循環バスの運行ルートを再編し、幹線走る民間路線バスと支線走る市内循環バスの役割分担を明確化させる。市内を4つの運行エリア(東・西・南・北)に区分し、車両5台による運行から4台による運行に変更する。これにより、現在の複雑な路線から、市民にとってわかりやすい路線に再編するとともに公共交通機関同士の乗り継ぎに配慮した運行ダイヤを設定する。

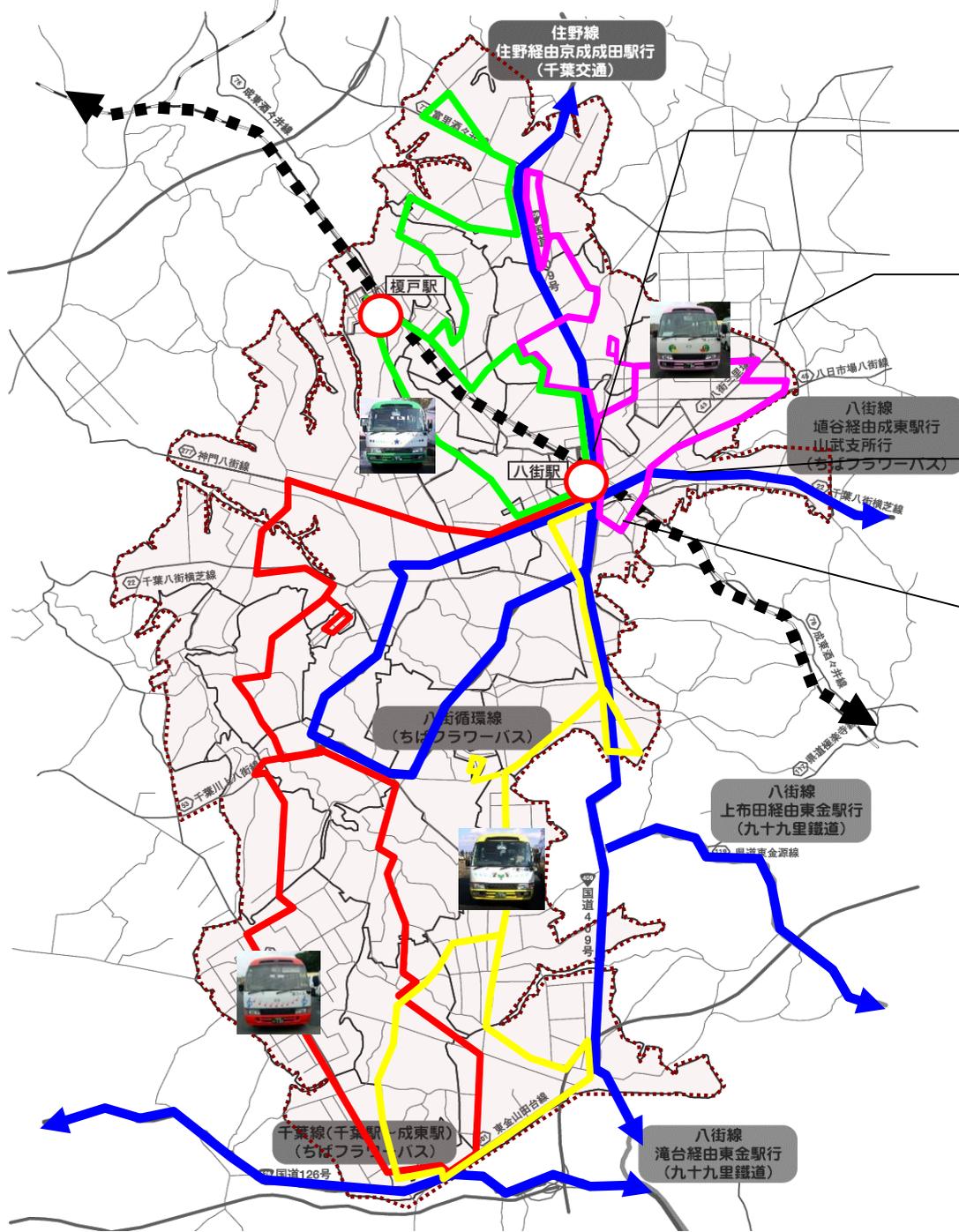
地域間または、地域内の幹線系統の移動を支える民間路線バス会社の役割は重大であるため、事業者と調整をしながら、路線及びサービスの確保、維持、充実を図っていく。

高齢者等の移動手段を確保するため、地域の住民がグループでタクシーを利用する際に支払う運賃の一部を助成するグループタクシー(相乗りタクシー)制度の導入する。地域の住民が声を掛け合い、共同でタクシーを利用することを通して、地域のコミュニティ形成を目指す。

次年度以降の取組概要

八街市地域交通再編実施計画(3月策定予定)に基づき、各種再編事業を実施により、市内公共交通の利用促進及び利便性の向上に取り組む。

公共交通ネットワークの基本イメージ



バスターミナル移設による乗り継ぎ強化

市内循環バスのターミナル機能をJR八街駅に移設。民間路線バスとターミナルを共有。交通結節点としての乗り継ぎ強化及び利便性の向上を図る。また、市民を市の中心部に集めることにより、まちの賑わい創出に繋げる。

市内循環バスの運行ルート・ダイヤの再編

市内循環バスの運行ルートを見直し、幹線を走る民間路線バスと支線を走る市内循環バスの役割分担を明確化させる。市内を4つの運行エリアに区分し、車両5台による運行から4台による運行に変更する。これにより、現在の複雑な路線から、市民にとってわかりやすく速達性を高めた路線に再編するとともに市民生活に配慮した運行ダイヤを設定する。

民間路線バスの確保・維持・充実

地域間交通及び地域内交通の幹線を走る民間路線バスを維持するため、路線バス事業者と調整し、利用者にとって利用しやすい運行サービスの実現を目指す。

高齢者を対象としたグループタクシーの導入

高齢者等の移動手段を確保するため、既存のタクシーを活用した「グループタクシー(相乗りタクシー)制度」を導入する。また、地域の住民が声を掛け合い、共同でタクシーを利用することを通して、地域のコミュニティ形成を図る。

- 市内循環バス (定時定路線型)
- +
- 民間路線バス (定時定路線型)
- +
- グループタクシー制度の導入 (既存タクシーの活用) 等

凡例

- JR 総武本線
- 民間路線バス
- コミュニティバス (再編)
- コミュニティバス (再編)
- コミュニティバス (再編)
- 交通結節点(乗り継ぎ拠点)